

てあしくちびょう
手足口病

【原因】 コクサッキーA群のウイルスとエンテロ71型ウイルスによる経口感染、飛沫感染

【感染しやすい期間】 最も感染しやすいのは、手足や口腔内に水疱・潰瘍が発症した数日間。ウイルスは唾液や呼吸器から1～2週間、便からは1ヶ月近く排泄されるので、おむつ等排泄物の取り扱いに注意します。

【潜伏期間】 3～6日

【症状】 口唇の内側、舌先などに口内炎ができ、よだれが増え、手足やお尻を中心に水疱を伴う発しんが出現します。発熱は



あっても1～2日で解熱し、発しんは1週間程度で消失します。

乳幼児に多い夏かぜの代表ですが、年長児や成人も発症することがあり、冬でも流行はみられます。原因ウイルスが複数あるため何度も発症します。口内痛のため水分摂取も困難なことがあります。コクサッキーA6型の手足口病では、後に指先の皮がむけたり、爪がはがれたりすることがあります。

【合併症】 夏かぜは時に髄膜炎を発症することがあり、注意が必要です。エンテロウイルス71感染による脳炎を伴った重症例の報告もあります。

【診断】 症状から診断されます。

【治療】 特別な治療はなく、水分と刺激の少ない食事の摂取で対応します。

【予防】 現時点で使用できるワクチンはありません。手洗いなど一般的な予防を行います。

【登校（園）の目安】 発熱や口内炎の影響がなく、食事がとれれば登校（園）可能です。ウイルス排出期間が長いため、登校（園）の停止は対策として現実的ではありません。

(2015.6.23)



ハピネス こども クリニック

お問い合わせは… 087-848-9178

